

平成三十年

第一回定例会一般質問

区政報告

千代田区議会議員

桜井ただし

平成30年第1回定例会一般質問

○25番（桜井ただし議員） 平成30年第1回定例会において自由民主党議員団の一員として一般質問をいたします。

昭和50年、学生時代に再生不良性貧血という難病を持つ子どものお母さんから、私に、A型の血液が足りず献血をしてくれる人を30人急いで探してほしいという依頼がありました。再生不良性貧血は、赤血球、白血球、血小板の全てが減少する疾患で、今では新薬も出て治療法も確立されていますが、当時は生まれてきた子どもたちにとって命をつなぐのに多くの血液が必要とされ、かつては約半数の人が半年以内に命を落とす難病でございました。

幸い学生時代の私の周りにはスポーツで鍛えた男たちが数多くいたため、猛者30人を引き連れて、指定をされた飯田橋の病院へ献血に行ったことを今でも覚えています。しかし残念ながら、しばらくしてそのお父さんが亡くなられたことを新聞で知りましたが、何とかこの子どもたちのために命を救ってあげられないものかという強い思いとともに、自分の無力さを強烈に感じたものでした。このことは、私の心の中で、障害者の方への思いの始まりとなりました。一方、私にとって千代田区における障害者福祉のかかわりは、当時、外神田一丁目にありました福祉作業所の整備からでした。ここには知的障害を持たれる方々が日々通い働ける区内唯一の施設で、昭和41年に東京都の施設として開設、昭和55年に千代田区に移管されたものでしたが、その設備は決して整っているものとは言えないものでした。利用者にとっても、職員の皆さんにとっても、大変ご苦労されたことと思います。

その後、新庁舎の整備にあわせて障害者就労支援施設ジョブ・サ

ポートちよだが開設、続いて障害者福祉センター「えみふる」は、身体、知的、精神の障害及び難病のある方が利用できる地域福祉の拠点としてオープンをいたしました。しかし、その運用の中で、グループホームやショートステイなどの課題も多く、それらの解決に向けた取り組みが早急に求められています。

そのような中、今回、予算案の中に障害者施策に幾つかの新規事業が並んでいるのを見て、驚きともにもうれしさを覚えました。区はやっと本気になって取り組んでくれるのか。区がアクションを起こそうとしていると思いたいのですが、その本気度を確認するため、障害者福祉に関しての幾つかの質問をしたいと思います。

石川区長は、共生社会を目指すことと事あるごとに強調されています。共生社会では、障害があっても尊厳を持ち自立して生活できるように、障害者福祉サービスはもとより、障害者福祉関係の施設も当然整備・充実されるべきであります。障害のある方の絶対数は高齢者や保育を必要とする子どもの数に比べれば非常に少なく、千代田区の区民世論調査でも、残念ながら障害者福祉施策に対する区民の関心が高いとは言えません。また、障害のある方とその家族が自分たちの要求を強く発信する機会も少なく、区民への理解が十分に得られるような状況とは言えません。あわせて、我々議員も今まで以上に障害者施策の実現に向けてより積極的に議論をしていくことが求められていると思います。

そのためだとは思いたくありませんが、区政運営において障害者施策は高齢者施策に比べて極めて見劣りがする状況のように思えます。障害者施策は、一人ひとりの身体状況によって支援の種類や量、対応などが大きく異なり、個別対応の側面が強くなっています。そのため高齢者介護とは異なるケアの難しさがあり、対応する職員

や施設運営法人の違いが大きなフアクターになると理解しています。よって、施設という箱を用意することも大変難しいことですが、それを運営する人、ソフトの確保が非常に高いハードルとなり、都心千代田の障害者施設整備が進まない要因の一つになっていると思います。

今までも障害を持たれている方の親御さんと話をする中で、自分がいなくなったとき、この子はどうやって生きていくのかという不安を常に抱えている。親亡き後の心配が払拭されなければ私はあの世に行けないわという話されていました。障害者福祉センター「えみふる」を整備する段階でもっと議論をし、多角的な検討ができていたなら、また終の棲家とは言わないまでも、入所サービスを提供できていれば多少は不安解消になったのかもしれない。しかし、残念ながらスペースなどの制約でそれは実現できませんでした。またグループホームは整備されましたが、数はもちろんのこと、快適性の面からも十分とは言えない状況でした。

平成29年第1回定例会において全会一致で議決した新たな障害者施設の増設を求める決議にあるように、障害のある方、その親たちからの強い要望は入所施設の整備であり、議会としても強くその整備を求めてきました。その中で、今回の予算や障害福祉計画策定方針の中で障害者の入所施設整備の検討が盛り込まれたことは一歩前進した評価をしたいと思います。実現までには相当の期間が必要ではあっても、着実に前進していくことが目に見える積極的な取り組みを期待したいと思います。

そこで質問をいたします。新年度、障害者の入所施設整備について、どのような検討をしていくお考えなのでしょう。またどのような課題が整理されているのかお答えをいただきたいと思えます。

次に、精神障害の就労継続支援事業やグループホームの設置についてお尋ねします。

現在、身体障害、知的障害のある方や、その家族にとっては十分とは言えませんが、区内には障害者福祉センター「えみふる」とジョブ・サポート・プラザちよだの2施設が整備され、知的障害を対象としたグループホーム、みさきホームがあります。しかし、精神障害者にとっては施設の整備がされておらずより深刻な事態になっています。精神障害の場合、身体障害とは異なり、外観からでは障害があることがわかりにくく、精神障害のある方の言動が精神障害に対する差別や偏見につながることが少なくありません。このことから、障害者施設に対する不安や拒否反応が生じていることで、精神障害の方やそのご家族が日常的に厳しい状況に置かれていることを思うと大変心配に思います。このことを解決するには、まずは障害のある方への理解、支援が広がることが大切だと思います。

以前、保健所の旧麹町庁舎内に精神障害者の方が集まり、共同作業をする場所がありました。それが同様な場合は今のえみふるにはありません。精神障害者は自立心が強く、他の障害の方と一緒に生活することを好まない傾向があり、えみふる内のグループホームを利用したがる傾向が強いとされています。精神障害者の家族がつくっているさくらんぼの会の皆さんは、10年以上前から精神障害者のグループホームの整備を強く要望し続けています。

その中で、平成30年度の予算案に精神障害者を対象とするグループホーム整備と就労継続支援が新規に計上されていることは大きな喜びを感じました。しかし、障害者の施設を整備するには、子どもの施設、高齢者の施設以上に難しさがあります。まずは周囲の理解を得ることが大きな課題となるでしょうし、さまざまな課題

も解決しなければならぬでしょう。私たち議会も障害者施設の充実、特に施設整備を強く求めてきました。踏み出した一歩が実を結ぶように、私もこれまで障害者とそのご家族にかかわってきた経験も生かして協力していきたいと思っておりますが、そこで質問をいたします。これまで進捗がなかった精神障害者の継続支援事業やグループホームの設置が予算に計上して具体化できる見通しがあるのかお答えをいただきたいと思っております。また、実現に向けての具体的なスケジュールをお示しくください。

以上、障害者福祉施策について質問をいたしました。区長並びに関係理事者の前向きなご答弁をお願いし、一般質問を終わります。ありがとうございます。（拍手）

○保健福祉部長（歌川さとみ君） 桜井議員の障害者福祉に関する

ご質問に区長答弁を補足してお答えをいたします。

新たな障害者施設の整備については、本年度、障害福祉プランを策定する過程で、施設整備に向けた基礎調査を実施いたしました。計画策定を通じて障害のある方が地域で暮らし続けるためにも、保護者等のレスパイトのためにも、区内に施設入所サービスを提供する施設を備えた総合的な支援の拠点が必要なことが明らかになりました。また、施設の規模や機能については、基礎調査の結果を参考に、地域包括ケアの観点を踏まえ、平成30年度は障害者福祉課の組織体制を見直し、具体的な検討を開始することとしております。次に、精神障害者のための就労継続支援事業所やグループホームの設置についてです。区が場所を確保し、事業内容を決めて整備する方法ではなく、既存のビル等を活用して独自性のある就労継続支援事業所を開設・運営する、また、民間マンションを活用してグ

ープホームを運営しようとする事業者に対し、整備と運営に関する経費を支援することで、区内に不足していた施設整備を進めてまいります。現在、千代田区での事業実施に意欲的な事業者から具体的な提案が行われ、区としてその支援方法を検討しております。実現に向けては障害に対するいわれのない嫌悪感や差別的感情をなくし、物件の所有者や周辺住民等の理解を得ることが大きな課題でございます。障害等のあるなしにかかわらず、暮らしやすい地域を目指し、平成30年度上半期には開設できるよう精力的に取り組んでまいります。